

安全データシート(Safety Data Sheet)

サン・ボンド【塩ビ用接着剤】

作成日 2009年11月30日

改訂日 2016年06月01日

1.化学品及び会社情報

化学物質名：	サン・ボンド【塩ビ用接着剤】
製品コード：	S-0032
会社名：	三成化工株式会社
住所：	大阪府大阪市城東区関目 4-11-38
電話番号：	06-6932-3531
緊急連絡電話番号：	090-1133-1763 / 090-1966-9728
ファックス番号：	06-6932-3830
メールアドレス：	sanseikakou@sunny.ocn.ne.jp
推奨用途及び使用上の制限：	合成繊維原料、合成樹脂溶剤、塗料溶剤、接着剤溶剤、医薬・農薬抽出溶剤

2.危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性：	爆発物	分類できない
	可燃性又は引火性ガス (化学的に不安定なガスを含む)	分類対象外
	エアゾール	分類対象外
	支燃性又は酸化性ガス類	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	区分2
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	分類できない
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	分類対象外
	有機過氧化物	分類できない
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性：	急性毒性-経口	区分4
	急性毒性-経皮	分類できない
	急性毒性-吸入(ガス)	分類対象外
	急性毒性-吸入(蒸気)	区分4
	急性毒性-吸入(粉じん)	分類対象外

	急性毒性－吸入(ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2A
	感作性－呼吸器	分類できない
	感作性－皮膚	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	区分 2
	生殖毒性	区分 2
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 1 中枢神経系 区分 3 気道刺激性 区分 3 麻酔作用
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 1 中枢神経系 区分 1 呼吸器 区分 1 肝臓
環境に対する有害性：	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境有害性(急性)	区分外
	水生環境有害性(長期間)	区分外
	オゾン層への有害性	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示：



注意喚起語：

危険

危険有害性情報：

- [H225] 引火性の高い液体および蒸気
- [H302] 飲み込むと有害
- [H319] 強い眼刺激
- [H332] 吸入すると有害
- [H335] 呼吸器への刺激のおそれ
- [H336] 眠気またはめまいのおそれ
- [H351] 発がんのおそれの疑い
- [H361] 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
- [H370] 中枢神経系の障害
- [H372] 長期にわたる、または反復ばく露による中枢神経系、呼吸器、肝臓の障害

注意書き

【安全対策】：

- [P201] 使用前に取扱説明書を入手すること。
- [P202] 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- [P210] 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- [P233] 容器を密閉しておくこと。
- [P240] 容器を接地しアースを取ること。
- [P241] 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。

	[P242] 火花を発生させない工具を使用すること。
	[P243] 静電気放電に対する措置を講ずること。
	[P260] 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
	[P261] 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
	[P264] 取扱い後は手をよく洗うこと。
	[P270] この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
	[P271] 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
	[P280] 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
【応急措置】：	[P301+P312] 飲み込んだ場合：気分が悪い時は医師に連絡すること。
	[P303+P361+P353] 皮膚(または髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を水(またはシャワー)で洗うこと。
	[P304+P340] 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
	[P305+P351+P338] 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
	[P308+P311] ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
	[P308+P313] ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
	[P312] 気分が悪い時は医師に連絡すること。
	[P314] 気分が悪い時は、医師の診察/手当てを受けること。
	[P321] 特別な処置が必要である(このラベルの・・・を参照)。
	[P330] 口をすすぐこと。
	[P337+P313] 眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。
	[P370+P378] 火災の場合：消火するために粉末、二酸化炭素、泡消火器を使用すること。
【保管】：	[P403+P233] 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
	[P403+P235] 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
	[P405] 施錠して保管すること。
【廃棄】：	[P501] 内容物/容器を国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：	化学物質
化学名(又は一般名)：	テトラヒドロフラン(Tetrahydrofuran)
別名：	ジエチレンオキシド(Diethylene oxide)
	テトラメチレンオキサイド(Tetramethylene oxide)
	1,4-エポキシブタン(1,4-Epoxy-butane)
化学式：	C ₄ H ₈ O(72.10)

CAS 番号：	109-99-9
官報公示整理番号：	化審法；(5)-53
分類に寄与する不純物 及び安定化添加物：	情報なし
濃度又は濃度範囲：	100%

4.応急措置

吸入した場合：	被災者を空気の新鮮な場所に移す。 呼吸停止または呼吸が弱い場合は、人工呼吸を行う。(衣類を緩め気道を確保する)
皮膚に付着した場合：	汚染された衣服、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。 多量の水または石けん水で十分に洗い落とす。
眼に入った場合：	清浄な流水で少なくとも 15 分間水で洗眼する。 洗眼の際、眼球とまぶたの隅々まで洗浄する。 コンタクトレンズは固着していない限り取り除いて洗浄する。
飲み込んだ場合：	無理に吐き出させない。揮発性液体なので吐き出すと危険性が増す。 意識がない被災者には、口から何も与えてはならない。
予想できる急性症状 及び遅発性症状の 最も重要な兆候症状：	吸入すると、咳、めまい、頭痛、吐き気、咽頭痛、意識喪失 皮膚に接触すると、皮膚の乾燥、発赤、痛み。 眼に接触すると、発赤、痛み。
応急措置をする者の保護：	必要に応じて有機ガス用防毒マスク、空気呼吸器、手袋等の保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項：	上記参照。

5.火災時の措置

消火剤：	小火災：粉末、二酸化炭素、泡、乾燥砂 大火災：散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤
使ってはならない消火剤：	火源へ直接に棒状注水
特有の危険有害性：	揮発性が高くかつ引火性の強い液体であり、空気との爆発性混合ガスを形成する。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 蒸気が空気と爆発性混合気を生成するおそれがある。 屋内、屋外又は下水溝で爆発の危険がある。
特有の消火方法：	火元への燃料源を断つ。 消火作業は風上から行う。 周囲の可燃物設備を散水して冷却する。 移動可能な可燃物容器は安全な場所へ移す。
消火を行う者の保護：	消火作業は、適切な保護具(自給式呼吸器、防火服、防災面等)を着用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置：	風下の人を退避させ、漏出した場所から人を遠ざける。 ロープ等を張り関係者以外立入禁止とする。 作業者は適切な保護具(8. ばく露防止及び保護措置の項を参照)
----------------------------	--

環境に対する注意事項：	を着用し、風上から作業する。 付近の着火源を速やかに取り除く。 側溝、下水、河川に流出しないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法 及び機材：	危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取扱う時に用いる全ての設備は接地する。 蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。
回収：	少量の場合、吸着材、土砂、ウエス等に吸収させ密閉可能な容器に回収する。 大量の場合、土嚢等で流れを止め(表面を泡消火剤で覆う)密閉可能な容器に回収する。その後は少量の場合に準じる。 水上に流出した場合、スキミング、吸収、固化(ゲル化剤)等で回収する。 回収には火花を発生しない道具を使用する。
二次災害の防止策：	すべての発火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7.取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 (局所排気・全体換気等)：	『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項：	使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしない。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 眼に入れないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 環境への放出を避けること。
接触回避：	『10.安定性及び反応性』を参照。
衛生対策：	この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 取扱い後は手をよく洗うこと。

保管

適切な技術的対策：	消防法の規定に従った技術的対策をとる。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
保管条件：	熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。 酸化剤から離して保管すること。 容器は直射日光や火気を避けること。 容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。 施錠して保管すること。
混触危険物質：	『10.安定性及び反応性』を参照。

安全な容器包装材料： 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8.ばく露防止及び保護措置

管理濃度：	50ppm
許容濃度：	
日本産業衛生学会勧告値 (2014年度)：	200ppmm
ACGIH (2014年)：	TLV-TWA 50ppm
設備対策：	屋内の取扱い場所は局所または全体排気装置を設ける。 取扱い場所の電気機器は防爆構造とし、機器類は静電気対策をする。 取扱い場所の近くに洗眼器・シャワーを設け、その位置を表示する。
保護具	
呼吸用保護具：	防毒マスク(有機ガス用)、送気マスク、空気呼吸器
手の保護具：	保護手袋(耐油性)
眼の保護具：	保護眼鏡、ゴーグル
皮膚及び身体の保護具：	保護長靴(耐油性)、防災面、保護服、保護前掛

9.物理的及び化学的性質

外観(物理的状态、形状、色など)：	無色透明な液体(ホンメル(1991))
臭い：	エーテル類似臭(ホンメル(1991))
臭いのしきい(閾)値：	データなし
pH：	データなし
融点・凝固点：	-108°C(融点)(GESTIS(2014)), -108.44°C(HSDB(2014))
沸点、初留点及び沸騰範囲：	65°C(沸点)(HSDB(2014)), 64°C(GESTIS(2014))
引火点：	-20°C(cc)(GESTIS(2014)), -14.5°C(cc)(HSDB(2014))
蒸発速度：	データなし
燃焼性(固体、気体)：	非該当
爆発範囲：	下限 2.0vol%、上限 11.8vol%(混触危険 Hb(第2版, 1997))
蒸気圧：	145mmHg(20°C)[換算値 19328Pa(20°C)](NFPA(12th, 1997))
蒸気密度：	2.5(air=1)(危険物 DB(第2版, 1993))
比重(相対密度)：	0.8892(20°C/4°C)(Merck(Access on May 2005))
溶解度：	水：混和(25°C)(HSDB(2014)) アルコール類、ケトン類、エステル類に可溶 (Merck(Access on May 2005))
n-オクタノール／水分配係数：	log Pow=0.46(測定値)(Howard(1997))
自然発火温度：	321°C(HSDB(2014)), 230°C(GESTIS(2014))
分解温度：	データなし
粘度(粘性率)：	0.00486g/cm·s(0.486mPa·s)(20°C) (溶剤ポケットブック(1994))

10.安定性及び反応性

反応性、化学的安定性： 禁止剤がないと空気酸化により過酸化物を生成
Bretherick(J)(5th, 1998)

危険有害反応可能性：	不安定(p-クレゾール、ヒドロキノン等の安定剤を加えて安定化。)強酸化剤、強塩基、いくつかのハロゲン化金属と激しく反応し、火災と爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件：	高温、日光。 フレイム及びスパーク発生装置から遠ざける。
混触危険物質：	強酸化性物質、強塩基性物質、ハロゲン化金属。
危険有害な分解生成物：	火災時の燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素などの有害ガスが発生する。

11.有害性情報

急性毒性：	
経口	ラットのLD50値として、1,650mg/kg(環境省リスク評価第5巻：暫定的有害性評価シート(2006))、1,900mg/kg(NTP TR475(1998))、2,000mg/kg(14日齢)、3,200mg/kg(若成体)、2,800mg/kg(老成体)(IRIS TR(2012)、ACGIH(7th, 2005))との5件のデータの報告がある。分類ガイダンスに従い、最多数(3件)のデータが該当する区分4とした。
経皮	データ不足のため分類できない。
吸入(ガス)	GHSの定義における液体である。
吸入(蒸気)	ラットのLC50値(3時間)として、21,000ppm(4時間換算値：18,187ppm)との報告(環境省リスク評価第5巻：暫定的有害性評価シート(2006)、ACGIH(7th, 2005)、NTP TR475(1998))に基づき、区分4とした。なお、LC50値が飽和蒸気圧濃度(213,158ppm)の90%より低いいため、ミストを含まないものとしてppmを単位とする基準値を適用した。優先度の低い情報源に代えて、優先度の高い新たな情報源(環境省リスク評価第5巻：暫定的有害性評価シート(2006)、ACGIH(7th, 2005)、NTP TR475(1998))を追加し、区分を見直した。
吸入(粉じん)	GHSの定義における液体である。
吸入(ミスト)	データ不足のため分類できない
皮膚腐食性/刺激性：	ウサギを用いた皮膚刺激性試験で、一次刺激スコアが1.93であったとの報告や(ACGIH(7th, 2005))、他のウサギを用いた試験で刺激性ありとの報告がある(IUCLID(2000))。また、ヒトへの影響に関して、本物質の蒸気が皮膚を刺激するとの記載がある(環境省リスク評価第5巻：暫定的有害性評価シート(2006)、ACGIH(7th, 2005))。さらに、ヒトにおいて「刺激性あり」、「刺激性なし」との相反する報告が複数ある(IUCLID(2000))。以上の結果から、軽度の刺激性を有する可能性を考慮し区分外(国連分類基準の区分3)とした。List 1の情報を追加し区分を変更した。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：	ウサギに本物質0.1mLを適用した眼刺激性試験で中等度の刺激性ありとの報告がある(ACGIH(7th, 2005))。また、ヒトへの影響に関して、本物質の蒸気が眼を刺激するとの記載(環境省リスク評価第5巻：暫定的有害性評価シート(2006))や、本物質の液体は眼に対して重度の刺激性を有する(HSDB(Access on

	July 2014))との記載がある。以上、「中等度の刺激性」及び「重度の刺激性」の記載から、区分2Aとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	呼吸器感作性：データ不足のため分類できない。 皮膚感作性：データ不足のため分類できない。なお、ヒトにおいて感作性陰性の報告がある(IUCLID(2000))が、試験法等の詳細が不明であるため、分類に用いるには不十分なデータと判断した。
生殖細胞変異原性：	ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivo では、マウスの骨髄赤血球及び末梢血赤血球の小核試験で陰性、マウス骨髄細胞の染色体異常試験で陰性、ラット肝臓の不定期 DNA 合成試験で陰性である(ACGIH(7th, 2005)、NTP DB(Access on September 2014)、IUCLID(2000))。In vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験、小核試験、姉妹染色分体交換試験で陰性である(ACGIH(7th, 2005)、NTP DB(Access on September 2014)、IUCLID(2000))。
発がん性：	ACGIH で A3(ACGIH(7th, 2005)、HSDB(Access on August 2014))、EPA で“suggestive evidence of carcinogenic potential”(IRIS TR(2012))と分類されている。以上より、区分2とした。
生殖毒性：	ラットを用いた経口経路(飲水)での2世代生殖毒性試験(OECD TG416)において、親動物毒性(体重増加抑制、腎臓の相対重量増加)がみられる用量(9,000ppm)で、生殖機能に影響はみられていないが哺育期間中の児の体重増加抑制、眼瞼開裂の遅延がみられた。しかし、催奇形性はみられていないとの報告がある(IRIS TR(2012)、環境省リスク評価第5巻：暫定的有害性評価シート(2006)、IUCLID(2000))。この試験でみられた児動物に対する影響はわずかな影響であったため分類には用いなかった。ラットを用いた吸入経路での催奇形性試験において、母動物に体重増加抑制がみられる用量(5,000ppm)で胎児に僅かな影響(胎児体重減少、骨化遅延)がみられたとの報告がある(IRIS TR(2012)、環境省リスク評価第5巻：暫定的有害性評価シート(2006))。この試験でみられた胎児に対する影響はわずかな影響であったため分類には用いなかった。マウスを用いた吸入経路での催奇形性試験において、母動物に重篤な母動物毒性(25%以上死亡)がみられる用量(5,000ppm)で95%の胚吸収を示している。この所見は重篤な母動物毒性がみられていることから分類には用いなかった。しかし、母動物に体重増加抑制、麻酔作用がみられる用量(1,800ppm)において胎児に影響(胎児の生存率低下、胸骨分節の骨化遅延)がみられたとの報告がある(IRIS TR(2012)、環境省リスク評価第5巻：暫定的有害性評価シート(2006))。以上のように生殖能に対する影響、催奇形性はみられていないが、マウスの催奇形性試験において母動物毒性がみられる用量で胎児の生存率低下がみられていることから、区分2とした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)：	本物質は気道刺激性がある(環境省リスク評価第5巻：暫定的有

害性評価シート(2006)、ACGIH(7th, 2005)、HSDB(Access on August 2014)。ヒトにおいては、蒸気吸入ばく露は高濃度で中枢神経系に影響を与えて嗜眠を起こす場合がある。また経口摂取や吸入ばく露で咳、咽頭痛、眩暈、頭痛、吐き気、意識喪失が生じる(環境省リスク評価第5巻：暫定的有害性評価シート(2006))。また、血中肝酵素の上昇、吐き気、めまい、聴力低下、血管浮腫、後頭部の頭痛、脳痙攣の報告がある(ACGIH (7th, 2005))。実験動物では、マウス又はラットの吸入ばく露で麻酔作用、過呼吸、高血圧、流涎、嗜眠、異常歩行、正向反射消失、自発運動低下、鼻腔出血、筋攣縮、中枢神経系への影響、呼吸困難、運動失調、チアノーゼ、昏睡、電気誘発発作の伝播・維持の阻害が報告されている(産業衛生学会許容濃度の提案理由書(1978)、ACGIH(7th, 2005)、HSDB(Access on August 2014))。以上より、ヒトに中枢神経系、気道刺激性、麻酔作用があると考えられ、区分1(中枢神経系)、区分3(気道刺激性、麻酔作用)とした。なお、旧分類では麻酔作用を不採用としているが、ACGIH、産業衛生学会許容濃度の提案理由書において、マウス、ラットで麻酔作用がみられていることから、今回採用した。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)：

ヒトでの反復ばく露による知見については、職業ばく露による報告が多く報告されており、中枢神経症状(頭痛、めまい、吐き気)、呼吸器症状(咳、胸痛、呼吸困難)、肝障害(血清AST、ALT、 γ -GTの上昇、肝生検による組織の脂肪変性、鉄沈着)の報告がある(IRIS TR (2012)、ACGIH(7th, 2005))が、いずれも他の複数の溶剤との複合ばく露影響であり、濃度やばく露期間との関連性も明確ではない。NIOSH 職業ばく露の作業環境調査で、本物質を含む複数の溶剤(アセトン、トルエン、メチルエチルケトン)が検出された工場作業員へのヒアリングでは、眼、呼吸器の刺激、頭痛、意識障害、嗜眠などの主訴が多かった(IRIS TR (2012))との報告がある。また、塩ビパイプ製造工場では本物質に最大1,000ppm(2,950mg/m³)の濃度でばく露された作業員の間で下半身の疲労を訴えた者が多く、臨床検査で全血の比重低下、白血球数減少、血清ALTの上昇、触知可能な肝腫大及び低血圧がみられた(IRIS TR(2012))との記述がある。なお、本物質にばく露された作業員1名が血尿を呈し、生検により、IgA増殖性糸球体腎炎を発症した(IRIS TR(2012)、ACGIH(7th,2005))との報告もあるが、1件1例のみの報告である。実験動物では、ラットに本物質(蒸気と推定)を12週間吸入ばく露(4時間/日)した試験において、区分2相当濃度(200ppm(600mg/m³))：ガイダンス値換算：0.37mg/L/6時間で、血清ASTの上昇がみられたとの記述、並びにラット及びマウスに13週間又は2年間吸入ばく露したNTP試験で、区分外の高濃度(1.77-5.31mg/L/6時間)で肝臓への影響(重量増加、肝細胞の壊死)、及び中枢神経症状(ばく露中からばく露終了1時間以内の昏睡(麻酔作用)、運動失調)がみられたとの記述より、実験動物での標的臓器も肝臓及び中枢神経系と考えられた。なお、実験動物でも一部の試験では極

めて高濃度で「血液系」への影響がみられるが、血液影響はヒトの知見でも共通性が低く、例外的な所見と判断した。また、「腎臓」を標的臓器と疑うべき所見は動物試験からは得られず、ヒトでの腎炎症例は特異な症例と考えた。以上、ヒトでの職業ばく露による知見は必ずしも本物質の単独ばく露の影響とは言えないが、実験動物での結果を併せ判断し、区分1(中枢神経系、呼吸器、肝臓)に分類した。なお、旧分類からは上記の理由により、「腎臓」を削除し、ヒトの知見で共通性の高い「呼吸器」を今回加えた。

吸引性呼吸器有害性： データ不足のため分類できない。

12.環境影響情報

生態毒性：
水生環境有害性(急性) 魚類(ファットヘッドミノー)の96時間LC50=2160mg/L(CERIハザードデータ集、2000)他から、区分外とした。
水生環境有害性(慢性) 難水溶性でなく(水溶解度=1.00×106mg/L(PHYSPROP Database、2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。
残留性・分解性： 情報なし
生体蓄積性： 情報なし
土壌中の移動性： 情報なし
オゾン層への有害性： 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13.廃棄上の注意

残余廃棄物： 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行なっている場合にはそこに委託して処理する。
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装： 汚染容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14.輸送上の注意

国際規制
陸上規制情報： ARD/RID の規定に従う。
国連番号： 2056
品名(国連輸送名)： TETRAHYDROFURAN
国連分類： クラス 3
容器等級： II
海上規制情報： IMO の規定に従う。
国連番号： 2056
品名(国連輸送名)： TETRAHYDROFURAN
国連分類： クラス 3
容器等級： II
海洋汚染物質： 該当しない

MARPOL73/78 附属書Ⅱ： 及び IBC コードによるば ら積み輸送される液体物質	該当する
航空規制情報：	ICAO/IATA の規定に従う。
国内規制	
陸上規制情報：	消防法の規定に従う。
容器：	危険物の規制に関する規則別表第 3 の 2
容器表示：	第一石油類、危険等級Ⅱ、数量、火気厳禁 名称、製造者の名称及び住所
積載方法：	運搬時の容器積み重ね高さは 3m 以下
混載禁止：	第 1 類及び第 6 類の危険物、高圧ガス
海上規制情報：	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報：	航空法の規定に従う。
特別な安全対策：	車両等によって運搬する場合は、荷送人は運送人へイエローカ ードを携帯させる。 荷崩れ防止を確実にを行い、衝撃、転倒、落下、破損が生じない ようにする。 その他、当データシートの取扱い、保管上の注意事項を参照の こと。
緊急時応急措置指針番号：	127

15.適用法令

消防法：	危険物 第 4 類 第 1 石油類 危険等級Ⅱ 水溶性液体(400L) (法第 2 条第 7 項危険物別表第 1・第 4 類)
労働安全衛生法：	有機溶剤中毒予防規則；第二種有機溶剤等 (施行令別表第 6 の 2・有機溶剤中毒予防規則第 1 条第 1 項第 4 号) 名称等を表示すべき有害物 (法第 57 条、施行令第 18 条) 名称等を通知すべき有害物；政令番号：367 (法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9) 危険物・引火性の物 (施行令別表第 1 第 4 号) 作業環境評価基準
労働基準法：	疾病化学物質
化審法：	優先評価化学物質
大気汚染防止法：	揮発性有機化合物
海洋汚染防止法：	有害液体物質(Z 類物質)
船舶安全法：	引火性液体類
航空法：	引火性液体

16.その他の情報

参考文献：	厚生労働省 職場のあんぜんサイト SDS 環境省 化学物質情報検索支援システム
記載内容の取扱い：	記載した内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づ いて作成しており、以上の情報は新しい知見により、改訂され

ることがあります。

また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。本製品を使用するに当って、提供された情報を適用するかどうかの最終的な決定は使用者の責任で行って下さい。全ての物質は未知の危険性を呈する可能性があり、ここで示した危険性は起こり得る全ての危険性を網羅したものであるということを保証するものではありません。

以上は情報提供であり、本情報による指示に従って本物質が取扱われていようといまいと、本物質の取扱いによって生じる損害等の結果に対する責任については一切責任を負いません。